

[成果情報名] ウメ果実の水浸漬によるケシキスイ幼虫の離脱効果と果実品質への影響

[要約] 水浸漬実施農家の梅干し一次加工品にはケシキスイの混入がなく、水浸漬実施農家の水槽内には離脱したケシキスイ幼虫が多数認められる。また、1時間以内の水浸漬では果実品質に影響はない。

[キーワード] ウメ、アカマダラケシキスイ、水浸漬、物理的防除法

[担当機関名] 果樹試験場うめ研究所

[連絡先] 0739-74-3780

[部会名] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ウメ果実に対するケシキスイ混入防止技術として水浸漬による物理的防除法を開発する。ここでは、水浸漬実施、未実施農家の梅干し一次加工品に対するケシキスイ幼虫の混入実態と水浸漬の効果、水浸漬の果実品質への影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 水浸漬実施農家の梅干し一次加工品にケシキスイ幼虫の混入は認められない（表1）。
2. 水浸漬実施農家の水槽内には離脱した幼虫が多数認められる（図1）。
3. 収穫期間を通じてケシキスイ幼虫の果実食入はみられる（図1）。
4. 1時間以内の水浸漬では果実品質に影響はない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. ウメ果実に食入したケシキスイ幼虫の物理的防除法として、水浸漬は有効である。
2. 「ケシキスイの防除法マニュアル」作成のためのデータとして活用する。

[具体的データ]

表1. 水浸漬実施、未実施農家の一次加工品へのケシキスイ幼虫の混入実態

調査農家	1回目				2回目				合計				
	A級		C級・格外		A級		C級・格外		A級		C級・格外		
	混入果率(%)	食入果1果当たり平均虫数	混入果率(%)	食入果1果当たり平均虫数	混入果率(%)	食入果1果当たり平均虫数	混入果率(%)	食入果1果当たり平均虫数	混入果率(%)	食入果1果当たり平均虫数	混入果率(%)	食入果1果当たり平均虫数	
水浸漬実施	A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-
	D	0.33	1.0	-	-	0	0	-	-	0.17	1.0	-	-
水浸漬未実施	E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	G	0	0	0.33	6.0	0	0	1.3	1.5	0	0	0.83	1.6
	H	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-

注) 平成17年度産加工品を供試

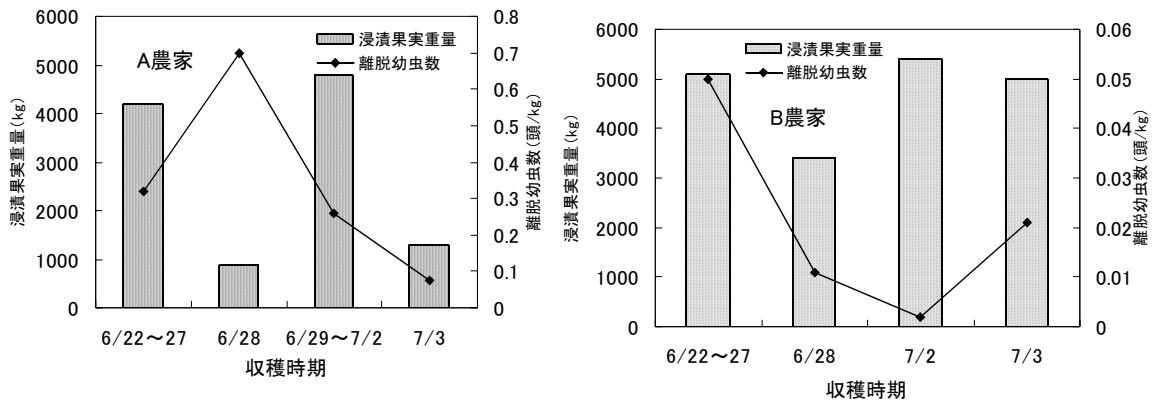


図1. 水浸漬によるケシキスイ幼虫離脱状況 (平成18年)

(水浸漬実施2農家で収穫期に浸漬後の水槽の幼虫数および果実重量を調査)

A 農家水槽 : 5,850L、B 農家水槽 : 3,375L × 2

表2 浸漬時間別一次加工後の果実品質調査

区分	破損果率(%)	塩分濃度(%)	酸度(%)	硬度(kg)
1時間	3.9a	26.0a	8.1	0.07
2時間	15.6b	31.9b	9.3	0.08
3時間	17.6b	25.8a	7.3	0.09
24時間	88.2c	28.4ab	9.7	0.11
無浸漬	5.0a	25.5a	8.1	0.10
有意性	**	*	ns	ns

** : 危険率1%で有意差あり。* : 危険率5%で有意差あり。

ns : 有意差なし 同一文字間には有意差がないことを示す。

浸漬前硬度は各区0.18kg

供試果数は各区50~60果

(Tukeyの方法)

[その他]

研究課題名 : ウメを加害するケシキスイの物理的防除法の開発

予算区分 : 戦略的研究開発プラン 研究期間 : 平成17~19年

研究担当者 : 菱池政志、三井信弥、島津 康、行森 啓

発表論文等 : なし